

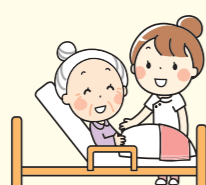
訪問看護 介護保険と医療保険

訪問看護サービスは、病気や障害をもちながら在宅療養する方は全て対象となります。

なお、対象者の年齢や病気によって介護保険と医療保険のどちらの利用となるか異なるため、各々保険対象となる要件について、ご説明します。

介護保険対象者について

- ①第1号被保険者（要支援・要介護と認定された65歳以上の方）
- ②第2号被保険者（40～64歳の方で、16特定疾病に該当し、要支援・要介護と認定された方）



医療保険対象者について

- ①40歳未満の方
- ②要支援・要介護認定非該当の方
- ③厚生労働大臣が定める疾病に該当する方
- ④急性増悪等により、週4回以上の頻回な訪問看護が必要となった場合
- ⑤精神科からの訪問看護
- ⑥入院期間の外泊時

どちらの保険であっても、訪問看護ステーションは、主治医が必要であると認めれば「訪問看護指示書」を受けて、訪問看護計画に基づき、サービスを提供します。

どちらの保険が対象となるかは、かかりつけ医または訪問看護ステーションに、ご相談ください。

各区はち丸在宅支援センターの連絡先

千種区 ☎052-732-0874	瑞穂区 ☎052-852-0874	名東区 ☎052-760-0874
東区 ☎052-933-0874	熱田区 ☎052-683-0874	天白区 ☎052-800-0874
北区 ☎052-982-0874	中川区 ☎052-354-0874	
西区 ☎052-561-0874	港区 ☎052-652-0874	
中村区 ☎052-481-0874	南区 ☎052-823-0874	
中区 ☎052-201-0874	守山区 ☎052-795-0874	
昭和区 ☎052-763-0874	緑区 ☎052-896-0874	



受付時間：月曜～金曜（祝日・年末年始除く）午前9時～午後5時

はち丸在宅支援センターは、名古屋市から委託を受け、一般社団法人名古屋市医師会が運営しています。

編集後記

新型コロナウイルス対応の長丁場に備え、感染拡大を予防する「新しい生活様式」の普及と定着が求められる中、季節は巡り夏を迎えようとしています。令和3年になってすでに半年。1年を名古屋ウィメンズマラソンに例えると中間地点の白川公園あたりでしょうか？

『年と共に時間が経つのを早く感じるようになる』と言われていました。

色々な要因がありますが、1つには、大人になるとトキメキ（心の動き）が少なくなるからだそうです。皆さんは、「新しい生活様式」での月日の長さは、どのように感じられましたか？

巣ごもり生活で、なかなかできなかった断捨離をしたり、料理の楽しさを味わったり、コロナ太りがきっかけで、ラジオ体操をするようになり爽快感を得たりと新たな発見もありました。不便や不自由もありますが、今だからこそできる事を見つけてトキメキのある充実した毎日を送りたいものです。

令和3年の残り半分、ゴールにはどんなご褒美（完走記念）が待っているでしょうか…

ご意見募集

皆様のご意見や感想をお聞かせください。



在宅医療と介護の連携推進

はち丸っと



多職種向け機関紙

Vol. 06

2021年春夏合併号

【編集・発行】
一般社団法人名古屋市医師会
はち丸在宅支援センター

はち丸在宅支援センターは、名古屋市医師会が名古屋市委託事業として実施している「在宅医療・介護連携推進事業」及び「在宅医療体制の整備事業」における在宅療養支援窓口として各区に設置しています。はち丸在宅支援センターでは、在宅療養に関する相談対応を始め、多職種連携の推進、在宅医療の体制整備を行っております。

令和3年度名古屋市在宅医療・介護連携推進事業について

名古屋市医師会では、令和3年度名古屋市在宅医療・介護連携推進事業において、医療や介護が必要になっても、市民が安心・安全な在宅療養生活を送ることができるよう、かかりつけ医の在宅医療の提供とそのための多職種連携を推進するため、下記事業を行います。

F・G・Hは16区全体で実施

A. 在宅療養に関する相談支援

市民を始め、多職種からの在宅療養に関する相談に対応します。

B. かかりつけ医の在宅医療サポート

かかりつけ医が円滑に在宅医療を提供できるよう、在宅療養に関する多職種との連絡調整を行います。

C. 医療・介護資源の把握

各区の医療資源（訪問診療/往診、オンライン診療、病院の連携窓口等）の情報把握を行います。

D. 医療・介護関係者の情報共有の支援

はち丸ネットワークの活用促進を行い、多職種による在宅療養者の情報共有を支援します。

E. 在宅医療・介護連携推進会議の開催

多職種連携に関する課題を抽出し、課題解決に向けた取り組みの検討を行います。

F. 在宅医療研修会の開催

在宅医療の推進を図るため、在宅医療に興味がある、また、在宅医療への参画を検討している医師等を対象に研修（WEB予定）を実施します。

G. ガイドライン活用に係る研修会の開催

名古屋市の在宅療養者がいつまでも安心・安全な在宅生活を送れるよう、医療・介護の多職種が在宅療養者本人の意思決定を尊重し、連携して支援するための指針として作成した「なごや在宅医療・介護連携ハンドブック～名古屋市における在宅医療・介護連携ガイドライン～」について現場で活用できるよう研修（WEB予定）を実施します。

H. ACP研修会（概論編）の開催

在宅療養者を支える多職種において、本人の意思決定を多職種間で共有のうえ、支援していくことが重要であることから、在宅療養者の意思決定支援への取り組みを推進するための研修（WEB予定）を実施します。

I. ACP研修会（フォローアップ編）の開催

在宅療養者の意思決定を支援するプロセスについて理解を深め、地域での多職種による支援体制づくりを推進するために、令和元年度実施のACP研修会（概論編）にて抽出された課題、また、在宅医療・介護連携推進会議で抽出された多職種連携の課題を基に、フォローアップとしての研修（WEB予定）を実施します。

J. 在宅療養に関する普及啓発の実施

市民を対象として、在宅療養に関する普及啓発を行います。



事業の実施状況等については、名古屋市医師会及び各区はち丸在宅支援センターへお問い合わせください。また、ウェブサイトにも随時、お知らせを掲載いたします。
(<https://zaitakukaigo.nagoya/>)



R2年度 WEB研修会を開催しました



令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、研修会の開催方法について大きく変更せざるを得ませんでした。状況が刻々と変化、先行きが見通せない状況が続く、市内各区で予定されていた研修会も中止となり、関係多職種の皆さまにも大変ご迷惑をおかけしました。

各区での研修会は中止となりましたが、在宅医療や多職種連携、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を学ぶ研修会へのニーズは高く、名古屋市医師会ではWEBで3研修会を開催し、計426人の多職種の皆さまにご参加いただきました。

2021年3月6日（土）14:00-15:00 なごや在宅医療・介護連携ハンドブック普及啓発研修会

令和元年6月発行「なごや在宅医療・介護連携ハンドブック」を使用し、〈在宅療養〉〈入退院〉〈看取り〉の3場面における連携について、古山明夫先生（古山医院）・藤原かをる氏（名古屋市立大学病院）・亀井克典先生（医療法人生寿会）に、実際の事例を織り交ぜながらお話しいただきました。

アンケート（回答率49%）では、ハンドブックについて「分かりやすい」91%、活用について「活用できる」74%との回答がありました。



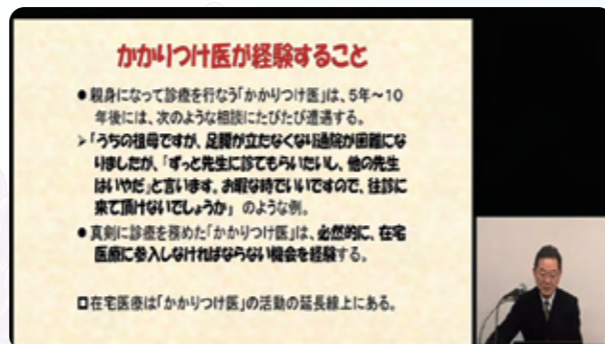
▶ご意見・感想など（自由記述欄より抜粋）

- ・事例を含みながらのACPの説明が分かりやすかった。
- ・ポイントがまとめてあり、経験の少ないスタッフ教育に活用できると思う。
- ・連携業務を再確認できた。日頃の業務に活かしていく。

2021年3月13日（土）14:00-15:00 在宅医療研修会

地域の身近なかかりつけ医であり、訪問診療を実施されている、中村区の古山明夫先生（古山医院）より、「多種多職種連携により可能となった一人診療所（一人医師）の在宅医療」というタイトルで、お話しいただきました。「在宅医療モデル」「一人診療所の強みと弱み」「在宅医療の流れ」そして「在宅医療と看取り」等、豊富な臨床経験を元にした幅広い内容でした。

アンケート（回答率37%）では、「在宅医療と多職種連携について理解が出来た」70%、「在宅医療について興味を持った」28%という結果が出ています。



▶ご意見・感想など（自由記述欄より抜粋）

- ・様々な場面での対応にどのような職種と関わっていくべきなのか知ることができた。
- ・他の先生の訪問診療における考え方や実践内容を聞く機会があまりないので、とても参考になった。



2021年3月18日（木）19:00-20:00 ACP研修会—基礎編—

名古屋市内の多職種による、アドバンス・ケア・プランニングのプロセスを踏まえた支援を推進するため、ACP研修会—基礎編—を開催しました。守山区の木村卓二先生（オリーブ在宅クリニック）より、前年度に行われた「ACP研修会（概論編）」の資料を元に、ACPの基本、また実際の進め方などを丁寧にお話しいただきました。

アンケート（回答率63%）では、ほぼ全ての参加者から「ACPIに関する理解が進んだ」と回答があった一方で、理解が難しかった点として「実践のイメージ」「共有意思決定支援（SDM）」が挙げられました。今回の研修会では、講義後のグループディスカッションが実施できず、実際の支援でどのようにACPを進めるべきかが大きな課題となって残っていることがわかりました。

▶ご意見・感想など（自由記述欄より抜粋）

- ・ACPという言葉は初めて聞いたが、医療に携わり、高齢者と関わる上で自然と実践してきた内容だった。苦戦することも多いが、今回の講義で引き出しが増えたと思う。
- ・具体的な例があると、より理解が深まると思う。
- ・多職種それぞれのACP実践における事例発表を希望。



開催日	研修会	参加者数	主な参加職種（数字は人数）
3月6日	ハンドブック研修会	165	看護師 49 医師 30 薬剤師 30 ケアマネージャー 19
3月13日	在宅医療研修会	104	医師 27 薬剤師 25 看護師 24 ケアマネージャー 11
3月18日	ACP 研修会	157	看護師 76 ケアマネージャー 27 薬剤師 14 医師/MSW 12

3研修会を受講された多職種の皆さま、ありがとうございました。

新年度を前に行った初のWEB研修会でしたが、「WEB開催は参加しやすいので今後もWEB開催をお願いしたい」とご好評いただきました。なお、研修会資料と動画ははち丸在宅支援センターのホームページにアップしていますので、是非ご覧ください。

皆さまからいただいたご意見・感想を元に、今後も在宅医療の裾野を拡げ、多職種のより円滑な連携が進むよう、コロナ禍においても医師/多職種向けのWEB研修会を開催していく予定です。

開催についてはHP等でお知らせしていきますので、是非ご参加ください！